

放射能からの環境保全のための 福島原発事故の教訓に基づく災害リスク 伝達者育成プロジェクト(アジア、アラブ、中米)

〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
25号室
<http://fukushimalessons.jp/>



つづける助成

1年目

知識の提供・普及啓発



福島での戦略ワークショップにて

戦略ワークショップ	18人
国際シンポジウム参加者	81人
今年度計画の達成度	60%
活動の全体目標に対する達成度	60%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

こちらの想定していた教材イメージと海外の参加者が必要とするものの違いがあり、教材作成について軌道修正が必要となった。

■ 工夫した点

会議参加者を対象とした福島の現状を知るツアーや戦略会議でのレクチャーなど、福島県内のリソースパーソンの協力をあおいだ。

課題

世界の原発立地国や建設計画のある国、特に途上国では原発リスクについて、幅広い建設的議論の場がなく、市民社会が得た福島の教訓もほとんど伝わっていない。

目標

原発立地地域(あるいは予定地)において、福島の原発事故の教訓をベースとして原発災害のリスク軽減と環境保全のための具体的な議論が喚起される。

活動内容と成果

原発の災害リスクについて伝える「災害リスク伝達者」の候補リストを作成し、その中から海外5カ国7人(ヨルダン1名、トルコ2名、インド1名、韓国2名、台湾1名)のゲストを招待し、日本のジャーナリストや専門家らを含めた福島

視察や福島での戦略ワークショップ、そして一般公開のシンポジウムを東京で開催した。この一連の活動の結果、ヨルダンと韓国と台湾でワークショップ等が実践された。また、浪江まち物語つたえ隊の映画『無念』の韓国語化の動きなどが生まれることとなった。福島県での放射能教育施設を批判的な視点で見学した。



海外の原発災害リスクについての意見交換

今後の展望

今回招待した海外ゲストを初めとした各国の災害リスク伝達者候補とコミュニケーションをとりながら、伝達者が使用する教材を完成させ、伝達者によるワークショップを当事国で行っていく。